

4

次は、御伽草紙『うらしま太郎』の【冒頭の部分】とその【現代語訳】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【冒頭の部分】

昔、丹後国たんごのくにに浦島うらしまといふ者はべりしに、その子に浦島太郎と申して、年の齡よば二十四、五の男ありけり。明け暮れ、海のうろくづを取りて、父母を養ひけるが、ある日のつれづれに、釣りをせんとて出でにけり。浦々島々、入江入江、至らぬ所もなく、釣りをし、貝を拾ひ、みるめを刈りなどしけるところに、ゑしいそまが磯といふ所にて、亀を一つ釣り上げける。

【現代語訳】

昔、丹後の国（今の京都府北部）に浦島という者がおったが、その子に浦島太郎といって、年のころ二十四、五歳の男がいた。明けても暮れても海の魚をとって父母を養っていたが、ある日、することもなくて、釣りをしようと出かけていった。あちこちの浦や島、入江と、行かないところもなく、釣りをし、貝を拾い、海藻を刈ったりしていたところ、えしまが磯というところで、亀を一匹釣り上げた。

一 ――線部「養ひける」を現代仮名づかに直し、すべてひらがなで書きなさい。

二 ――線部「つれづれに」の意味を【現代語訳】の中から抜き出しなさい。